

値上げ予定の公共料金・家計への影響

(消費者団体調べ)

	値上げ巾	実施時期	1ヶ月の負担増
1 消費者米価	3.2% (「外食」は含まず)	2月	176円
2 消費者麦価	14.1%パン・めん類にはねかえり。	2月	303円
3 国鉄運賃	6%	4月	252円
4 郵便料金	はがき50%、封書20%	10月	87円
5 NHK受信料	カラー710円→880円 白黒420円→500円	4月	カラー170円
6 健保医療費	自己負担率11.8%→17.2%へ。		2,608円
健保保険料	現行標準報酬8% (労使折半で4%) とボーナスの3%→ 標準報酬とボーナスの合計の7% (労使折半で3.5%)		月にすると 1,707円
7 たばこ	マイルドセブン150→180円など。		900円
8 電気料金	沖電、北電除く8社 50~70%台。	4月1日	2,395円
9 ガス料金	50%	4月1日	2,061円
10 航空運賃	24~43%	1月	249円
11 大学授業料	年間144,000円→180,000円	4月	3,000円
12 国民年金	保険料 月3,300円→3,700円	4月	470円
13 厚生年金 保険料	標準報酬の9.1%→10.1% (労使折半)		2,700円
合計	そうす と?? → 家族4人、世帯主の年齢44歳、その税込み月収は、 292,861円の平均的所帯をモデルとして計算すると → こうなる!!	1ヶ月に何と17,078円	も家計を圧迫する!

春闘討論資料 その4

へ同盟・民社の右翼的・労資協調勢力は、かの「賃上げ8%要求」論を説明する際に、「向う一年間の(イ)物価上昇分16%、(ロ)定昇(ハ)生活向上分12%」なる数字を上げているがいかにかにデタラメ

②、ふつう「卸売物価」が上りはじめると、それから数ヶ月後には「消費者物価」が上がりはじめるので、昨年後半より急上昇をえがいているカーブは、今年春以降の「消費者物価の急カーブ上昇」へと反映されて、われわれの家計を直撃することとなると見られている。事実、昨年末も十一月11四・九%、十二月11五・八%、と上昇ビッチがはね上がったきている。(下図グラフを参照)

(『日刊』三八六号(3/26付)より続く)

労働者の生活を直撃する 物価異常高騰

日刊動労千葉

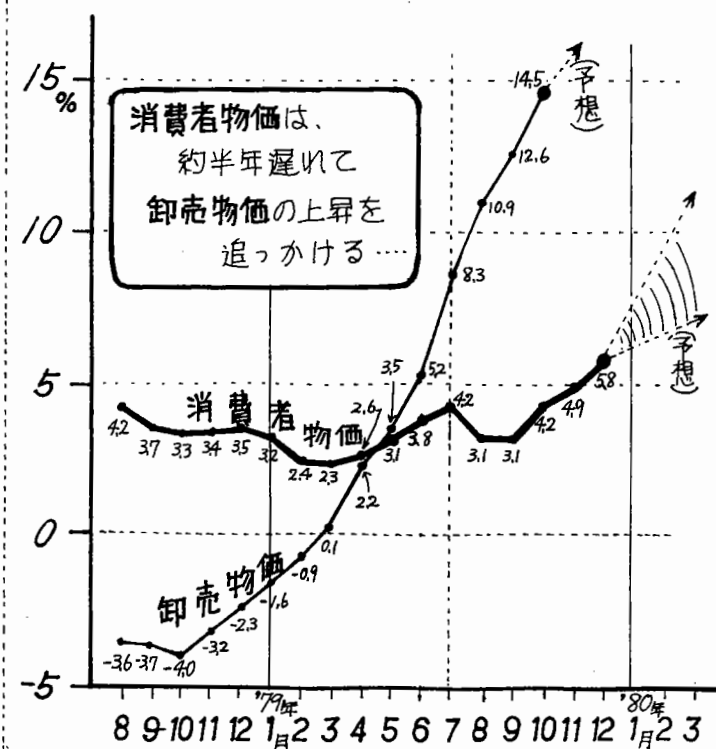
80.3.28

NO. 388

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
鉄電二五八・九・(公衆電話三三二七二〇七)

帝国主義経済の構造的 矛盾と危機を全面露呈



なものなのか明らかではないか。そして、それに追従して「8%ガイドラインで統一」した総評・民同の裏切りもまたしかりなのだ。

更に拍車をかける「公共料金 大幅値上げ」のラッシュ!

5

更に加えて、政府は、今年度予算では、①福祉キリスト ②減税キリスト ③公共料金のきなみ大巾アップ、の露骨な大衆収奪にうったえており、すでに電気・ガスの五〇%〜七〇% (四月一日より実施) というとうほうもない値上げを強行している。

上に示す表は、その代表的なものであり、これだけでも、標準の一ヶ月の家計は一万七千円以上出費がかさむのみならず、他の関連する物価を次々と底上げするのだ。(例えば「外食費」「サービス料金」「私学」等々……) これだけで「消費者物価を二%分押し上げる効果が出る」と計算されている。こんなメチャクチャな値上げを断じて許してはならない!

なぜ?! こうも、はね上る……

「値上げ」が政府・大独占の基本政策!

なぜ、こうも、メチャメチャにはね上るのか? いわゆる「不景気」なのに、「超インフレ」

(裏へつづく)